

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4592000089		
法人名	株式会社 耕智		
事業所名	グループホームこころみ		
所在地	宮崎県児湯郡都農町大字川北16975番地3		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 利用者様お一人おひとりを自分の家族と思い、その人らしさを大切にし、安心して穏やかに生活が送れるように真心を持って支援させて頂いています。
 2. 最期まで自分でお食事が美味しく食べられるよう、口腔体操や手足の体操に力を入れています。
 3. 地域のかたとの交流が図れるよう、外出の機会や他の事業所との連携を図り、スタッフの向上心にもつながるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を家族と思い、毎日の生活が安心して穏やかに過ごせるようにと管理者、職員は介護の原点に立ち、最善のケアを目指し、思いを共有しながら運営にあたっている。口腔体操をはじめ、手足の体操を毎日取り入れ、利用者の体力の維持に努めている。そのことにより、介護度改善につながった例もある。職員は、朝のあいさつはもとより利用者の家族、友人、外部の方々の来訪時は元気の良いあいさつを交わし、家族を迎え入れる気持ちを持って接している。管理者は、人材育成に力を入れ、惜しみなく後押しを図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示しており、職員や利用者様のご家族、他来設者の目に入るようにしている。ケース会議等でも触れ、周知している。	運営理念に加えて、地域密着型サービス理念を揚げ、「家族のつながり、地域の中のホームとしてのふれあいを大切にしながら、安心した日常生活を送ることが出来るように」といった具体的な理念を職員全員で作り上げ、実践にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に保育園があり、園児達と七夕の製作や夏祭りに参加させて頂き、交流をさせて頂いている。	近くにある保育園との交流やボランティアの受け入れはあるものの、開設して間もないホームであり、ホームに対して地域住民の周知が少なく、交流が図られていない。	開設間もないホームで、道路に面したホームの入り口に看板も無く、地域住民への周知が届いていない。ホームの側から積極的に働きかけ、ホームの理解と地域の交流を望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員一人ひとりが地域の要となれるよう言葉かけをしており、相談にのったりなど、業務時間以外でも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催しており、家族の方の列席もあり、出された意見は運営や支援に活かせるよう会議録を職員全員に回覧し、周知している。	委員からの意見や実際的な提案は、開設間もないホームにとって運営や支援に生かせる貴重なものになっている。会議録は職員全員に回覧し、周知の上でサービス向上に生かす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回出席して頂き、現状報告等の連携や毎月行われるケアマネジャーの勉強会に参加させて頂いて、意見交換する場がある。	町担当者の運営推進会議への参加や町内で開かれる勉強会が、連絡や意見交換の場になっている。管理者は役所に出向き、ホームの現状報告や相談事にと協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育系の研修テーマとして取り上げ拘束を行うことによる悪影響等について学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は、身体拘束の内容とその弊害を認識し、自由な環境の中で過ごしてもらえるように利用者の動きを束縛せず、玄関の開錠を含め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を防止する為、認知症についての理解を深めるように研修参加を促したり、資料等を用いたり、利用者様のことで悩まないよう話し合える環境作りを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等に参加したり、資料を用いるなどして、施設内研修ができるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始前に不安、疑問点等を聞き、ご理解、納得の上で利用できるよう見学や話し合いの場を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由に記載できるようにノートを各自用意している。会話の機会を大切にしている。	家族からの意見に対しては早急に対応し、解決に向けている。利用者や家族の意見を大切に思い、意見や要望をもらうことでサービス向上につなげ、運営に反映させる努力を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点については、常時対応できるよう緊急に会議を開き、討議を行っている。早急対応を心掛けている。	利用者が、安全で快適な日常生活ができるようにと、職員会議で意見や提案を出しているが、職員会議に運営者の参加がなく、職員の生の声が届いておらず、運営の反映には至っていない。	会議に運営者の参加がなく、職員の生の声が届いていない。より良いサービス提供のために、運営者は積極的に会議に参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	設立してまだやっと1年ではありますが、職員のやる気や向上心からエネルギーをもらい、職員一人ひとりに対してできる限りの事をしていきたいと思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修やグループ法人と共有できる研修の場をもち、学校等に通う職員は、優先的に休みを学校予定に合わせ、また、学費等の相談にも応じている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があるごとに勉強会や交流する場を持ち、事業ごとにグループ法人等で、職員だけでなく利用者の交流も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用されていた介護保険事業所、または医療機関からの基本的な情報を得るとともに、本人の意向、要望に沿うことが出来るよう、要望を話し易い雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の家族が参加されるカンファレンスで面識を作り、家族が希望や思いを伝え易いように傾聴に徹している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のADLやそれまでのライフスタイルを把握して、アセスメントを実施し、サービスを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内での家事(洗濯物、調理)を共に行うことや互いにわからないことを教え合うことで、共同生活が成り立っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設の行事や日常の来設の際には、近況や心配事等を家族に伺いながら会話し、信頼関係を作り、入居者本人への支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の保育園への訪問、町内各所へのドライブ等を定期的実施している。	友人、知人の来訪はもとより、利用者がよく利用していた図書館へ行くこともあり、時には長年住み慣れた我が家へ様子を見に帰ることもある。利用者のなじみの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの個性と利用者同士の関係を把握し、対人トラブルなく交流できるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居期間に築いた信頼関係を大切にして、利用終了後も相談やアドバイスを受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴、言動を調査し、思いや意向の把握に努めている。	常に寄り添い、目線を同じにしてコミュニケーションを図り、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用しながら、利用者の思いをくみ取る努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から生活歴、馴染みの暮らしかた、生活環境を伺い、これまでの暮らしの把握。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のADL、病歴等を理解し、残存能力の維持、向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者それぞれの課題が発生した際には、職員間でカンファレンスを実施し、介護計画に反映させている。	3か月に1回の見直しと、利用者の変化に伴い計画の見直しを行っている。担当者会議には家族の参加をお願いし、話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアについては、ケース記録(個別記録)に記入している。しかし、気づきや工夫についての記入が少なく、改善が必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設する小規模多機能事業所が、サービスの多機能化を担っており、グループホーム利用者との人的交流に役立っている。		

宮崎県都農町 グループホームこころみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着型の施設で、近所の保育園まで散歩に行ったり、保育園児が施設まで足を運んでくれたりと交流がある。また、図書館等にドライブに行ったり、地元の理髪店での散髪を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院で定期受診を実施している。ほとんどが当施設の協力病院での受診となっている。	従来からのかかりつけ医の受診となっている。入居前からのかかりつけ医が、ホームの協力医ということもあり、連携が密に取れており、適切な医療を受けられるように、支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働により、症状の観察、適切な処置を学んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との情報交換を行っており、入退院の情報も早期に把握することが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な課題が大きく、重度化や終末期の検討が必要な利用者様に対しては、事前に家族との話し合いで方向性を明確にしている。	入居時に、利用者、家族に対する重度化や終末期における支援について、現段階では職員の力不足と、協力医との連携がまだ図れておらず困難な状況にあること、現状でホームが出来得る最大の支援について説明を行い、家族の理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	作成された連絡網により、上司に判断を仰ぐケースがあった。応急手当、初期対応の研修が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	8月8日に自衛防災訓練を実施した。夜間の防災訓練は今後、実施予定である。	8月に消防署立会いの下で訓練が行われ、11月に夜間訓練も合わせて行う予定である。利用者をより速く安全に避難をさせるための環境の整備が出来ておらず、地域住民との協力体制も築けてない。	利用者を安全な場所に避難させるために、地域住民の協力体制と車いすの移動がスムーズに、より安全に避難できるように、環境を整備していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同空間での声かけに配慮している。意向自尊心を損ねないよう声かけ、声の大きさ、態度に留意している。	職員は、利用者を人生の先輩として、敬意を払った言葉かけや対応を心がけている。時には方言を使い、和やかな雰囲気作りに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望が表現できるよう、関係作りに努めている。意思表示や反応を見逃すことのないよう傾聴し、雰囲気作りや声かけの工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ペースや好みが一人ひとり異なることを前提に、その日その時の状態や気持ちを尊重し、できるだけ個別性の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の洗面、整髪、外出時の化粧の支援を行っている。更衣では、助言を交え衣服を選んで頂いている。散髪は、地域の理・美容店に來設して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々様々なメニューを組んでおり、楽しんで頂けるよう工夫している。摂取量の少ない方には好物の物を提供するなど、個別支援に努めている。また、材料の下ごしらえを職員と共に行い、コミュニケーションを図っている。	食事の量や形態も個々に応じた配慮があり、ほとんどの利用者が介助なしで食べている。食事前に口腔体操を全員で行っている。体操によって食欲増進につながり、利用者の大半が完食で、利用者にとって毎日の食事が楽しめるよう支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食事摂取チェック表」や「水分チェック表」などを用いて、一人ひとりの状態を確認している。夜間は、自立にて水分補給できる方には、お茶の入った容器を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄・舌洗浄・うがいを行っている。夜間にはポリドントを使用し清潔保持に努めている。また、外出先からの帰設時、おやつ前の手洗いうがいを徹底して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が困難な方でも、職員が2名介助で行ったり、手摺等を上手に使って頂いています。トイレでの排泄が不可能な方には、居室にてP/Tを設置するなど工夫し、利用者様一人ひとりに合った排泄の自立支援を行っている。	排せつの自立に向けて、利用者の表情や動きを見ながらトイレの誘導を行っている。排せつの自立へと緩やかに向かう支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食形態に沿って提供し、その日の体調に合わせて工夫している。1日の水分補給を徹底して行い、日々のレクリエーション等で必ず運動を取入れている。便秘が続く際は上司へ報告し、服薬による対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴曜日は決めているが、バイタルの異常、その日の状態、本人の希望に沿って入浴を行っている。職員との会話を楽しく頂き、笑い声のある楽しい入浴をして頂けるよう支援している。	ゆっくりと入浴を楽しんでもらうために、無理強いせず、利用者の希望に沿った対応をしている。時には入浴剤を入れ、温泉気分を味わってもらうなどの工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の希望に沿って居室で休んで頂いたり、フロア内のソファで休んで頂いたり、その時その時に応じて対応できるよう、環境を整え穏やかに安心して休んで頂けるよう、利用者様の生活に合わせて一日一日を過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬については、処方箋の確認をしている。日々の服薬については間違えないようチェックを徹底している。服薬による変化や変更は、施設長や看護師に伝え、指示を受けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの家族の支援も必要だと思うが、できるだけスタッフが寄り添い、話し相手になったり、毎日のレクリエーションに参加して頂き、楽しんで頂いている。ドライブなども気分転換として行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はなかなかできていないが、行事として気候の良い時に出掛けている。その日の希望にはあまり添えないが、家族の支援もあって外出のできている人もいるが、病院受診のみという方のほうが多い現状です。	ホームの玄関を出ると、広い庭には砂利が敷いてあり、車いすが石に阻まれ容易に動かず、近隣への散歩もなかなか行けない現状にある。時には少人数に分けてドライブに出かけるが、一同みんな揃って出掛ける機会が持てず、家族や利用者の希望に沿えてない。	利用者や職員が、安全に日常の散歩や外出が出来る環境の整備と、家族やボランティア、地域住民の協力を得ながら出かけることが可能にならないか、検討を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こちらでは、利用者様のお金の所持、使用は実施していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	母の日やイベント時に、ご家族から手紙を書いて頂いたり等を実践している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、居室に季節感を採り入れられたり、利用者様が工作で作られたものを飾ったりと、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者が集うフロアは木の温もりがあり、車いすの生活を余儀なくされている利用者にとって、自由にのびのびと動けるスペースもある。広い開口から車や人々の行きかう姿が見られ、自然の風や光が入り、心地よく過ごせる空間になるようにとの工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアではイスを並べ、利用者様同士が雑談をしたり、テレビ観賞できるよう配慮しているが、独りになり自分の時間を過ごしたい人には、離れた位置にソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、我が家から持ってこられた物を部屋に置き、家で過ごされてきたような空間を設定し、心地よく過ごして頂いている。	使い慣れた整理ダンスや衣装ケース、家族の写真や思いでの品々を壁に貼り、住み慣れた我が家のように居心地良く過ごせる環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体に手摺があり、また、車椅子が通れるように広い空間なので、自分なりにできる範囲で機能訓練ができる環境で毎日過ごして頂いている。		